

フィリピン大学 交換留学報告書

静岡県立大学 国際関係学部

国際関係学科 2年

フィリピン大学にオンラインで参加したことは今後の人生において大きな経験であると断言できる。ネットを通じて現地の学生や先生たちだけでなく、ほかの国から留学してきた同世代の人々と交流することで異文化に対する理解を深められた。それによって、今まで自分が常識だと思っていたものが、常識ではないということを知れた。この報告書では、私がオンラインでの留学を通して学んだものについて報告していきたい。

まず初めに学んだことは、失敗を恐れない心である。日本の大学の講義では、先生が学生に意見や考えを求めても積極的に発言をしないという光景をよく目にする。しかし、フィリピン大学の講義でそのような光景を目の当たりにすることはなかった。それだけでなく、毎回生徒の方から積極的に授業に参加するのが普通だった。この光景を初めて見た時、私はとても衝撃を受けた。私が思うに、この違いはそれぞれの国に住む人々の性格に起因している。日本人は他の国の人々に比べ、失敗を恐れ積極的行動ができない側面があると私は感じる。その例に今回のようなことがあげられる。一方、フィリピンを始めとする外国出身の人々は私たち日本人に比べて先ほどの傾向が見られない。そのため、何かミスや間違いを犯したとしても、羞恥心を感じる事が少ないと感じられる。このような経験から不退転の心をととても大事であると感じた。したがって、今後は今まで挑戦するのを躊躇っていたことも挑戦していくことで自分の可能性を広げていきたい。

次に学んだのは、自分の意見を他者に伝えることの必要性である。フィリピン大学の講義では、自分の考えや意見を問われる機会が非常に多いという印象を受けた。日本では、それぞれの人がもつ考えやアイデアよりも正解の答えの方が重視される傾向があるため、このような経験は初めてだった。この経験から、人から何か意見を求められたとしても必ずしも正解を出さなければならないわけではないということを知ることができた。そのため、フィリピン大学の講義に慣れてきた頃には、自分の意見を他の人に伝えられるようになった。

今回、私はオンラインでの参加になってしまい、思うように現地のひとと交流を深めることができなかつたのは紛れもない事実である。それでも、上に挙げた二つのことを学ぶことができたのは今後の自分の糧になっていくと思う。そのため、今留学を迷っている人がいたら臆せずに挑戦してほしい。